

緑肥を用いた土づくりによって施肥のコスト削減へー

肥料高騰時代の緑肥活用術

一般公開
セミナー
入場無料

緑肥による土づくりは、有機農業の取組面積100万haの2050年達成に向けた基盤技術とされています。さらに、昨今の肥料価格高騰に対して支援を受ける場合の要件の一つに、緑肥作物の利用が挙げられています。では、いつ・どこで・どのようなときに緑肥を活用すればよいのか、緑肥にはどのような効果があるのか。今回のセミナーでは、化学肥料の施肥量とコスト削減を両立させる緑肥活用術をご紹介します。

13:00 基調講演 「土づくりと減肥に役立つ緑肥の機能とその効果的な使い方」

農研機構 中日本農業研究センター 温暖地野菜研究領域 グループ長 唐澤敏彦氏

作物を栽培して田畑にすき込み、次の作物の肥料にすることを緑肥と呼びます。緑肥は、土壌への有機物補給などを介して、土づくりに役立ちます。また、次の作物に養分を供給することで、減肥につながります。これら緑肥の機能を紹介するとともに、その効果を高めるために有効な緑肥の選び方や栽培方法を紹介します。



14:00 講演1 「緑肥作物の導入が高冷地キャベツの生育と根こぶ病発生に及ぼす影響」

信州大学 農学部 土壤栽培学研究室 助教 鈴木香奈子氏

アブラナ科根こぶ病は生産の場において深刻な問題です。通常は殺菌剤を使用して防除することが多いのですが、環境への負荷は大きくなります。そこで、緑肥を導入することにより、根こぶ病の発症抑止が可能であるか試験を行った結果について紹介します。

14:30 講演2 「緑肥作物による減肥栽培技術への取り組みについて」

長野県 野菜花き試験場 環境部 研究員 矢口直輝氏

長野県は、葉菜類を中心に連作障害対策として、昔からエンバク、ライムギ、ソルガムといったイネ科緑肥が利用されてきていますが、後作物への肥料としての有効利用はされていません。そこで、今回は、ライムギとソルガムを用いた後作物の窒素減肥栽培技術を中心に、緑肥を用いた窒素減肥栽培技術について紹介します。

15:00 事例報告 生産者による取組事例の発表を予定しています

3.17 (日) 13:00~15:30 (開場12:30)

会場 伊那市産学官連携拠点施設「inadani sees」ホール
〒399-4501 伊那市西箕輪7200-27(中央道伊那ICから車で約2分)

定員 60名(参加費無料/事前申込不要)

地図



inadani sees
アクセス

